

もくじ

この本の考え方	iv
この本の使い方（実践者のみなさんへ）	vii
この本の使い方（この本で学ぶみなさんへ）	ix
Can-do リスト	x
コラム 当たり前の向こう側へ移動してみよう	xii



【別冊】
ポートフォリオ

ユニット 1

私の言語ポートレート ▶自分のことを知ろう 1

- ▼1 描いてみよう 2
- ▼2 考えてみよう 4
- ▼3 ふり返ってみよう 4
- コラム 消えていくことば、つなげたい心 5
- 表現集 気持ちについて話すときに使えることば／ふり返りで使えることば ... 6

ユニット 2

私とあなたの人生の物語 ▶教室内の多様性に気づく 9

- ▼1 考えてみよう 10
- ▼2 クラスメートにインタビューしてみよう 10
- ▼3 クラスメートの物語を書いてみよう 12
- ▼4 もっと調べてみよう 13
- コラム 多様なルーツから生まれる音楽の力 14
- 表現集 インタビューで使える表現 15

ユニット 3

国境を越えて移動する人々 ▶「移民」とは？ 17

- ▼1 読んでみよう 18
- ▼2 話し合ってみよう 19
- ▼3 考えてみよう 20
- ▼4 もっと調べてみよう 21
- コラム 国籍って何？ー スポーツとアイデンティティから考えるー 23

ユニット 4

世界と日本の難民の現状 ▶難民問題に対するさまざまな見方 25

- ▼1 話してみよう 26
- ▼2 読んでみよう 26
- 難民問題の理解と対応ー 難民と移民の混在移動の時代にー（滝澤三郎） 28
- ▼3 話し合ってみよう 41
- ▼4 もっと調べてみよう 41
- コラム 自分も周りも幸せにー ネイリストのノンノンさんー 42
- 表現集 読んだ内容を引用して話すときの表現 44

ユニット
5

ひとりの若者の人生の物語 わかもの ▶ 難民当事者の視点から気づくこと 45

- 1 調べてみよう 46
- 2 ライフストーリーを読んでみよう 47
 - 境界を越えて — 難民キャンプから知の世界へ — (ペントウーさん) 48
- 3 日記を読んでみよう 54
- 4 話し合ってみよう 58
- 5 日記を書いてみよう 58
- コラム 僕の夢は兵士になることだった 59
- 表現集 感想を話すときに使える表現 61

ユニット
6

4人のチェンジメーカー (1) ▶ さまざまな立場から社会の課題に取り組む 63

- 1 話してみよう 64
- 2 ライフストーリーを読んでみよう 66
 - ライフストーリー①：在日ミャンマー人が集まるコミュニティをつくる
(チョウチョウソーさん) 67
 - ライフストーリー②：カメルーン生まれ、日本育ちのクリエイター
(星野ルネさん) 74
 - ライフストーリー③：外国人のコミュニティとなった日本語クラブ
(胡子和子さん) 84
 - ライフストーリー④：海外ルーツの子どもたちに学びの場を提供
(田中宝紀さん) 92
- コラム 戦火を越えて アラブ諸国と日本の学びの架け橋に
— モハンナドさんの挑戦 — 103

ユニット
7

4人のチェンジメーカー (2) ▶ さまざまな考え方や価値観、思いを理解する 105

- 1 話してみよう 106
- 2 説明の準備をしてみよう 106
- 3 説明してみよう 108
- 4 話し合ってみよう 109
- コラム 風がつかないだふたつの国
— 「デンマーク国籍の日本人」スズキさんの思い — 110
- 表現集 説明や質問をするときに使える表現 /
共通点や関心について話すときに使える表現 112

ユニット
UNIT
8

意外と身近にチェンジメーカー？ (1)

▶ ライフストーリー・インタビューの計画と実施	115
1 考えてみよう	116
2 話し合ってみよう	117
3 インタビューの準備をしてみよう	121
4 インタビューをしてみよう	124
コラム 自分の生き方を模索してーボリビアに移住した佐藤さんー	125
表現集 丁寧なメールを書くための表現／話を深めるための表現	128

ユニット
UNIT
9

意外と身近にチェンジメーカー？ (2)

▶ ライフストーリー・インタビューの報告	131
1 話し合ってみよう	132
2 発表の準備をしてみよう	132
3 発表してみよう・聞いてみよう	136
4 ディスカッションをしてみよう	136
5 評価してみよう	137
ライフストーリーを書いてみよう「身近なチェンジメーカーの人生の物語」	138
コラム 学生食堂ではじめる対等な支援ー大学生の北村さんー	139
表現集 発表の表現／質疑応答・ディスカッションの表現	142

ユニット
UNIT
10

私たちが学んだこと ▶ 学びをふり返り、自分にできることを考えよう

1 学んだことをふり返ってみよう	146
2 もっとふり返ってみよう	146
3 話し合ってみよう	147
コラム 子どもたちの「もう一つの教室」	
ー 前場さんが大切にしている居場所づくりー	148

オプション
ユニット
OPTIONAL UNIT
4

地域の活動を知る ▶ 教室を飛び出して見学・参加しよう！

1 調べてみよう	152
2 見学・参加してみよう	152
3 書いてみよう	153
4 話し合ってみよう	153
コラム① 日本語でつながるみんなの時間	
ー 地域日本語教室 VEC の活動に参加してー	154
コラム② 物語に耳を傾けようーヒューマンライブラリーー	156

ユニット
UNIT
4

2 質問①～⑪の解答	157
------------	-----

この本の考え方

本書は、アカデミックな日本語を学ぶための教科書です。本書では、日本語を通して考えを深めていきたいテーマとして Action for Community Engagement を選びました。Action for Community Engagement とは、社会や地域に関わり、共に生きる社会をつくるために、そこにある課題を周りの人と共に考え、行動することです。教室の中で日本語を学ぶことに完結せず、身近なコミュニティと関わりながら社会の課題について学びを深め、自分はどうか行動していくか考えていく必要があります。

近年、国や地域を越えて移動する人々がますます増加しており、多文化共生は重要な社会の課題になっています。もとのコミュニティを出て国や地域を越えて移動する背景には、教育や就労など、よりよい生活機会を求めたものから、戦争や紛争、貧困、格差、差別、気候変動などによるものまであります。現在、世界は決して平和とは言えません。その世界を多くの人がさまざまな理由で移動しています。日本では、外国人を受け入れる側としての議論が多く見られますが、歴史的には日本からも多くの人々が移民として海外へ渡り、それぞれの地で生活を築いてきました。現在も多くの人々が日本から国外に移動して生活しています。周りを見渡すとそのような移動の経験がある人々との接点があるはずは必ずあるはずです。

移動の経験がある人々（移民・難民）について学ぶことは、遠い世界の出来事に見える問題を、自分たちの日常生活と結びつけて考えるきっかけになります。移民・難民についての議論には、多様な意見と立場が存在します。本書では、ひとつの見方に偏らず、異なる視点を持つ複数の読み物（移民・難民当事者や支援者の語り、移民・難民問題に対する取り組みに関する記事など）を取り上げました。共に生きる社会の一員として移民・難民当事者や支援者を捉え、彼らが何を考え、どう生き、行動してきたのかを知ることができると思います。すぐに正解が出ないテーマだからこそ、「自分には関係がない」と無関心になりがちですが、他者との対話を通じて多様な観点から考えを深めていくことが重要です。この社会にどう関わっていくのかを「自分ごと」として考え、行動するためのことばを身につけていきましょう。

CLIL 日本語教育シリーズは、日本語教育を通して世界の平和について学ぶことの大切さを示した
縫部義憲先生（広島大学名誉教授）の「PEACE」というコンセプトがもとになっています。縫部先生は平和な世界を実現するために、「PEACE」の頭文字をとって以下のような5つの課題を考えていく必要があると提案しました。

本書は、その5つの課題のうち「自立のための支援（Assistance in need）」と深く関わっています。社会の変化とともに、移動の経験がある人々（移民・難民）は支援される側というだけでなく、地域社会を共につくっていく主体でもあるという視点が重要になってきています。そこで、本書では「共に生きる社会のために（Action for Community Engagement）」というテーマのもと、移民・難民やその支援について知識として理解するだけでなく、実際に人やコミュニティとつながり、対等な立場で対話や協働を重ねながら関わり行動していくことが重要であると考え、PEACEの概念をアップデートすることにしました。

P : Poverty（貧困からの脱却）

E : Education（すべての人に教育を）

A : Assistance in need（自立のための支援）

→ Action for Community Engagement（共に生きる社会のために）

C : Cooperation & Communication（協働と対話）

E : Ecology & Environment（生命と地球環境の保全）

「共に生きる社会のために」というテーマをより深く理解するために、本書では、日本語だけでなく、みなさんの第一言語や英語、そのほかの使える言語も重要な学習資源として捉えています。必要に応じて多言語の資料、デジタルツール、AIを活用しながら学ぶことも効果的だと考えています。



また、本書は、CLIL（Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）という教育アプローチに基づいています。CLIL は、あるテーマや内容について学ぶことを通して、日本語を勉強する方法です。具体的には、以下の4つのCを意識して学んでいきます。

	内容 Content	世界で起こっているさまざまな問題を理解する
	言語 Communication	日本語で互いに伝え合う、学習スキルを高める
	思考 Cognition	内容や言語の学習について考える
	協学・異文化理解 Community/Culture	地球市民の一員として、仲間と協調する

日本語を実際に使いながらアカデミックな学習スキルや深く考える力を伸ばし、仲間との協働や異文化理解を通してテーマへの理解も深めていきます。本書での学びが、日本語力の向上にとどまらず、世界の課題を「自分ごと」として考え、多様な視点から対話し、実際の行動へとつながっていくことを願っています。

この本の使い方（実践者のみなさんへ）

本書の目的と対象者

本書では、日本語の学習だけを目指すのではなく、内容への深い理解、他者と協働する力、そして批判的思考スキルの向上も目指しています。主に日本語上級以上の学習者を対象としていますが、大学の初年次教育、高校生の国際理解教育、継承語教育などにも応用できると思います。日本語学習者に限らず、このテーマについて共に学ぶための教材として活用していただければ幸いです。

学習の進め方

本書は、11 ユニット（ユニット 1 ～ 10 + オプションユニット）から構成されています。

各ユニットの冒頭には、そのユニットで目指す学習目標が、CLIL の 4 つの C の観点から示されています。学習者と実践者はこれらの観点を共有しながら、日本語を使って「何ができるようになるか」（Can-do）を意識して学習を進めていきます。さまざまな読み物を読んで内容理解を深めることに加えて、発表やディスカッションを通してクラスの仲間と考えを共有し、対話を重ねながら思考を深めます。また、学んだ内容や自分の意見をポートフォリオにまとめて振り返る活動も行います。このように、本書では「聞く・読む・話す（やり取り・発表）・書く」を統合した言語活動を通して、情報を整理して伝える力や根拠をもとに意見を述べる力などの学習スキルを身につけていきます。

読み物の特徴

本書の読み物には、国際機関で難民問題に取り組んでいた方による寄稿、移民・難民当事者および支援者へのインタビュー記事、マンガ、各ユニットの内容に関連したコラムなどが収められています。移動の経験がある人々（移民・難民）をめぐる問題には多様な立場や意見があるため、ときには学習者同士で考えが異なることもあるでしょう。それは学びを深める大切な機会です。心理的に安心できる環境のなかで、相手を尊重しながら、自分の意見との違いについて考え、多様な視点から社会課題を捉え直す時間にしてください。

学習のサポート

読み物には、学習者にとって見れない語や難しい語も多いので、語彙リストを作りました。語彙リストは、凡人社の教材サポートページからダウンロードできます。また、話したり書いたりするときに活用できる表現をユニット末に掲載しています。

本書の各ページの右の欄には、その活動に必要なキーワードやポイントが書かれていて、この本のキャラクターであるクリルンが学びをサポートしてくれます。空いているスペースには学習者自身が新しく学んだことばを書き込むなど、自由に使ってください。



ポートフォリオの活用

本書には、毎回の活動に必要なワークシートがまとめられた「別冊ポートフォリオ」が付属しています。ポートフォリオは学習者自身の学びの記録になるもので、コースが終了したときに、ポートフォリオを見返して、この本で何を学んだか振り返ります。成績をつける際の評価の対象にすることもできます。日本語はもちろん、内容の理解が深まり、批判的に考えられるようになる、当事者として捉えられるようになるなど、それ以外にも多くの点で成長を感じることができると思います。ポートフォリオの一部は凡人社の教材サポートページからダウンロード可能です。



紙版と電子版について

本書は紙版と電子版があるため、授業形態や学習環境に応じて使いやすいほうを選んでいただければと思います。

さらに詳しい情報について

CLIL についてもっと詳しく知りたい方は、『日本語教師のための CLIL（内容言語統合型学習）入門』（凡人社）をご覧ください。また、各ユニットに関する活動のアイデアや留意点については『日本語で PEACE CLIL 実践ガイド』をご参照ください。実践ガイドには、本書のテーマに関する理解を深めるための情報なども含めました。しかし、私たちは、移民研究や難民政策の専門家ではないため、まだまだわからないこと、知らないこともたくさんあります。また、社会状況も変化していくでしょう。ぜひ、学習者のみなさんと学びを深めながら、本書の内容をアップデートしていく気持ちで進めていただければと思います。

この本の使い方（この本で学ぶみなさんへ）

- 主に、上級レベル以上の日本語学習者、アカデミックスキルを高めたい大学生などが対象です。
- 紙版と電子版があります。みなさんが使いやすいほうを選んでください。
- この本は全部で11のユニット（ユニット1～10＋オプションユニット）があります。
- ユニットによって活動は異なります。

〔ユニット1の活動〕

1	描いてみよう
2	考えてみよう
3	ふり返ってみよう

〔ユニット2の活動〕

1	考えてみよう
2	クラスメートにインタビューしてみよう
3	クラスメートの物語を書いてみよう
4	もっと調べてみよう

- ふりがなは、日本語能力試験（JLPT）N1 程度以上の語（ユニットで初めて出たもの／読み物はそのページで初めて出たもの）についています。
- 語彙リストは、この教科書のサポートページからダウンロードできます。

【サポートページ】（2026 年現在）

https://publishing.bonjinsha.co.jp/support/clil_a



- 別冊のポートフォリオも必ず使いましょう。学習効果が^{たか}まり、自分の成長に気づくことができます。
- 移動の経験がある人々（移民・難民）の問題には、簡単な正解がないことも多いです。だからこそ、「なぜだろう」「どうしてだろう」と問いを持つことが大切です。
- 他の人の多様な意見を尊重しましょう。お互いに自由に考えを述べましょう。
- もっと知りたいと思ったことは、自分で調べてみましょう。調べるときには、日本語だけでなく、自分が使える他の言語も活用してかまいません。
- さまざまな言語や文化、自分と異なる考えを持つ人と学ぶことは、視野を^{しや}広げる大切な経験です。ぜひ対話を楽しみながら学んでください。

楽しく学ぼう



Can-do リスト

コースの前とコースのあとにチェックを入れて、できることを比べてみましょう。

● Content 内容

／	／	No.	Can-do	主なUNIT
✓	✓	1	自分や他の人の移動の経験・理由、考え方や価値観を知っている。	1, 2, 3
✓	✓	2	ライフストーリー・インタビューという調査方法を知っている。	2, 8
✓	✓	3	海外から移動してきた人々に対してさまざまなイメージがあることを知っている。	3
✓	✓	4	世界と日本の難民の現状を知っている。	4
✓	✓	5	難民問題に対するさまざまな見方や対応を知っている。	4
✓	✓	6	当事者の視点から、難民の生活の現状、将来への思いを知っている。	5
✓	✓	7	移動の経験がある人々（移民・難民）の現状や課題、必要な支援について知っている。	6, 7
✓	✓	8	さまざまなチェンジメーカーの考え方や価値観、思いを知っている。	6, 7, 8, 9
✓	✓	9	社会の現状やしぐみについて知っている。	4, 10
✓	✓	10	授業を通して学んだことと自分を結びつけられる。	10

● Communication 言語

／	／	No.	Can-do	主なUNIT
✓	✓	1	経験や感情を伝えられる。	1, 2
✓	✓	2	毎回の授業で学んだことについて、ふり返りが書ける。	1~10
✓	✓	3	相手に合わせた表現や質問、共感を表すことばを使って、インタビューで きる。	2
✓	✓	4	読み物から、重要な出来事やエピソードを読み取れる。	3, 5, 6
✓	✓	5	専門的な読み物から、重要な情報、筆者の主張とその根拠を読み取れる。	4
✓	✓	6	読み物を読んで、筆者の活動内容、活動の背景にある理念についてまと められる。	6, 7
✓	✓	7	インタビューで相手の話を引き出し、より深い話を聞ける。	8
✓	✓	8	聞き手の反応を見ながら、説明のスピードやくわしさを調整して発表できる。	9
✓	✓	9	ディスカッションで、根拠を挙げながら自分の意見が言える。	9
✓	✓	10	ポートフォリオやインタビューした人のことばを引用して、自分の意見が 書ける。	10

● Cognition 思考

／	／	No.	Can-do	主なUNIT
✓	✓	1	自分自身の経験や言語を分析・整理できる。	1
✓	✓	2	自分と他の人の経験を比較して、共通点と相違点を見つけられる。	2
✓	✓	3	複数の情報を比較して、社会問題に対するイメージが事実かどうか判断できる。	3, 4, 5
✓	✓	4	筆者の主張とその根拠を分析できる。	4
✓	✓	5	社会問題について批判的・多角的に考えられる。	4, 5
✓	✓	6	読み物を読んで、重要な情報を取り出し、整理できる。	4, 5, 6, 7
✓	✓	7	さまざまな人の考え方や価値観、思いの共通点と相違点を考えられる。	7, 8, 9
✓	✓	8	発表内容から議論を深めるべきディスカッション・ポイントを見つけられる。	9
✓	✓	9	授業で学んだことをもとに、社会のしくみを再考できる。	10
✓	✓	10	他の人のためにできることや社会とつながる方法を考案できる。	10

● Community/Culture 協学・異文化理解

／	／	No.	Can-do	主なUNIT
✓	✓	1	自分の経験を他の人と共有できる。	1
✓	✓	2	自分と異なる経験、考え方や価値観を持つ人々に関心を持っている。	2
✓	✓	3	さまざまな人の考え方や価値観、思いを理解できる。	4, 5, 6, 7
✓	✓	4	自分と異なる立場や意見があることに気づける。	3, 4, 5, 6, 7
✓	✓	5	チェンジメーカーの活動の文化的・社会的背景を理解できる。	6
✓	✓	6	読み物の内容や考えたことを協力してまとめられる。	7
✓	✓	7	インタビュー相手の考え方や価値観を尊重できる。	2, 8
✓	✓	8	発表やディスカッションで、役割を分担し、協力して進められる。	9
✓	✓	9	ポートフォリオを活用して、自分の考え方や価値観をふり返ることができる。	10
✓	✓	10	授業を通して学んだことや考えたことを他の人と共有できる。	10